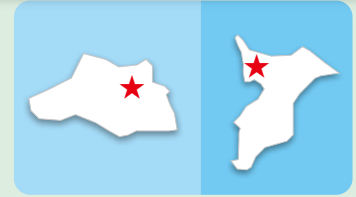


実証成果 イオンアグリ創造(株) (千葉県柏市ほか)

実証課題名 広域シェアリング利用によるスマート農機シェアリング体系の実証

経営概要 250ha(全国20農場) うち実証面積:いちご0.5ha, トマト3.3ha他



- 導入技術**
- ① 遠隔操作/自律走行型電動スマート農機『FARBOT』(モア、運搬車、ブロワ GINZAFARM (株))
 - ② 農機シェアリングシステム『AGRICOM』(株)エボレボ



目標 2 か年でシェアリングサービス利用者倍増。
シェアリングによるスマート農機導入コスト 15% 削減。スマート農機による労働生産性を 3% 改善。

1 目標に対する達成状況

○2 か年の実証で利用者数 2.3 倍、シェアリング件数は 6.8 倍となり、スマート農機に適したシェアリングサービスとして普及を進められた。
○導入スマート農機では、モアで 33%、ブロワ/防除機で 2~3 倍程度の作業性を実現した。経営全体の生産性(パート人件費率)は、実証開始前と比較し、各実証区において 1.5~7.2% の改善となった。

2 導入技術の効果

農機シェアサービスの普及

- スマート農機シェアリングの予約をオンライン上で効率的に実現。
- 展示会、メディア掲載や自社サイトへのリリースを通じたシェアサービスの普及活動に努め、会員数およびシェアリング実績の倍増を達成
- 実証を通じ、実証機以外のスマート農機にもシェアリングが拡大



実証を通じた生産性の改善

売上高パート人件費率	R2-R4改善幅 (目標3%)	実証機種
実証区A(いちご他)	7.2%	モア・防除機 +ブロワシェア利用
実証区B(トマト)	1.5%	ブロワ・防除機 *防除機はいちごに移転

- 実証区A:モア・防除機の導入に加え、ブロワのシェアリング利用での効率化と、管理レベル向上による収益改善により改善幅 7.2% と目標達成となった。
- 実証区B:ブロワ・防除機導入も導入遅延で実質 1 年での活用となり、大規模ハウスでの防除機の薬液ホースけん引に課題があったため、1.5% までの改善に留まった。

スマート農機シェアリングの効果

スマート農機	収益目標 償却費15%相当	必要シェア日数 ¥1,000/日	コンソ内 シェア実績
モア 3台	6.3万円	63日	239日
運搬車 3台	6.3万円	63日	156日
防除機/ブロワ 3台	16.8万円	168日	156日

- モアは広域シェアリングで十分なシェア利用を実現、運搬車は防除機との組合せで活用範囲が拡大した。
- 本州圏内であれば広域輸送でも 2 万円程度のパレット輸送費を実現。「スマート農機の効果」作業効率から、時給 1000 円の場合で 20~70 時間程度の稼働で輸送コストを回収可能であった。

スマート農機の効果

- モア:スムーズな走行で刈払比 33% 改善
- プロアアタッチメント:自走+2 台同時操作で従来比 2 倍の作業性
- 防除アタッチメント:レール自動往復と静電ノズルで効率化・軽量化・散布量削減。防除専用ロボットと同程度の作業性を実現

スマート農機	従来作業	従来比作業効率
FARBOTモア	刈払	1.33
FARBOTプロア (施設レール自動走行)	手動プロア (荷負+手押)	2.1
FARBOT防除機 (施設レール自動走行)	すずらん動噴	3.2

3 事業終了後の普及のための取組

○コンソ内でのシェアにとどめていた実証実機をニーズの見込める各農場に配置し、モデル生産者として今回の導入実機でのシェアリングに参画し、シェア農機として一般へ開放する。提携生産者および一般生産者へのシェアリングを通じ、スマート農機のシェアリングおよびスマート農機双方の普及に努める。
⇒シェア利用希望者は <https://agricom.jp/> へアクセス

問い合わせ先 イオンアグリ創造(株) <https://www.aeon.jp/agricreate/contact/index.html>